

飛田雄一 ゆうさんのハイキング生活



-
- 1 大雪／トムラウシ1 2頁
 - 2 大雪／トムラウシ2 8頁
 - 3 幻の「越後三山縦走」 11頁
 - 4 幌尻岳 18頁
 - 5 野口五郎岳、行ってきました 22頁
 - 6 越後駒ヶ岳のサイクリング? 29頁
 - 7 ユングフラウ、マッターホルンがほほえむ!?
～スイストレッキング紀行～(2018年夏) 36頁
-

●1 大雪／トムラウシ1

7月（2007年）東京のaiさん、sakaさん、名古屋のsaiさんの4名で、北海道大雪だ。誘ってくれるので遠出ができるのである。

22日（日）昼、千歳空港に集合。列車で旭川に、そしてバスで層雲峡に入る。途中、「旭川・層雲峡自転車道」を見つけてこんなところを自転車で走ったら最高だろうと思いをめぐらす。

<http://yuki.ideas.co.jp/jiten30.htm> によると、旭川層雲峡自転車道 全体計画(68.2km) 供用延長(17.6km) 起点地名・旭川市常盤公園、終点地名・上川郡上川町層雲峡温泉、問合先・北海道土木部道路計画課、電話・011-231-4111（内）28-446とある。そのうち是非走ってみたい。夜、それなりにお酒を飲み、明日からの登山にそなえてわりあいと早く寝る。



（札幌から旭川へ）（層雲峡の宿）（銀泉台から登る）

23日（月）、朝一番の銀泉台行きのバスは6時発で少々早いのでパス。7時にタクシーで向かう。前日、8000円でチャータしていたのだ。少し手前でメータは8000円を越えると運転手さんはメータをたおす。我々そんなことも知らないことにして、約束どおりを支払う。途中の絶景で車を停めて写真も撮ってくれるし、山のことに結構詳しい若くて感じのいい運転手だった。ありがとう。



（そこらじゅう、大きなフキだらけ。宿でもでた。北海道は山菜の宝庫！！）（第1花壇をのぼる。高山植物がほんま、きれい。）（花がきれい）

銀泉台は標高1500メートル。あと600メートル。六甲山より低い、なんとかなんと軽快にスタート。北海道の山は初めてだ。他のメンバーは数年前に旭岳からトムラウシのコースにチャレンジしたが

悪天候でさんざんな目にあったとのこと。さて今回は・・・。

北海道の山小屋は日本アルプスのように1泊2食****円とはいかない。食料、寝袋等は持参しなくてはならない。ガイドブックには「避難小屋がいっぱいのこともあるのでテント必携」とある。以前このメンバーで、テントを担いで登ったこともあるが、もう体力的には無理な感じ。その「必携」を無視することにした。

私は、さっそくチョンボを指摘された。いつものリックを忘れたのである。saiさんが、飛田さんのリックは六甲山用みたいに小さい、というのである。そうだ、登山を再開して購入した上等のリックサックを忘れて古いのを持ってきたのだ。



(全員集合) (雪渓をあるく、けっこう多い) (雪渓の道の目印)

家で荷造りをしているときにリックに用具が入らないのである。行動食用の食べ物を買すぎたからか、減らそうか、お腹が減るな、などなど考えたのである。さらに現地で支給される食料を持つとなると、リック内の寝袋を外にくくりつけるしかない。私は結局、マットをやめた。石ころのテント場ではなくて避難小屋だし、マットがなくてもなんとかなるだろう。大いに悩んだが、これは、本来のリックをもっていかなかったからなのである。層雲渓でそれに気がついたのだから、どうしようもない。

大雪山系は、20年ほど前にスキーで旭岳にきただけである。旭岳のスキーに憧れて、札幌での仕事の帰りに単身やってきた。ロープウェイの終点までいき、2、3回滑った記憶がある。斜度がひどいということはないが、コースが狭いのである。怖かった。確かマスターズの大会にもでるといふ芦屋のおじさん(でも、今のわたしぐらいか?)といっしょになったことを覚えている。



(旭岳方面の雪渓と筆者、愛用のモンベル帽子) (空もおおぞら) (赤岳へ)

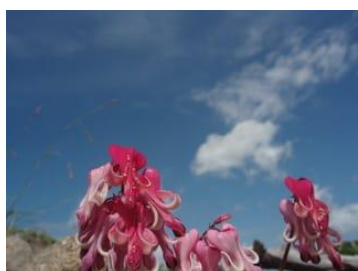
前回挫折した sai さんらは、黒岳からのコースだったそうだ。今回はそれよりアプローチが少し短い銀泉台コース。第1花苑、第2花苑を快調にのぼり、駒草（コマクサ）平に。北海道の高山植物はほんとにスゴイ、また季節もマッサカリだったので最高だ。



（小泉岳山頂）（また、あおぞら）（綿ぼうし）

赤岳（2078M）で東西南北の大展望を楽しんだのち、小泉岳（2158M）に向かった。小泉岳が、かの小泉時代になぜ有名にならなかったのかと少し考えたが、いつ着いたのか分からないようにしてついてしまった。看板もしょぼくれていた。山頂もどこかハッキリしない山だ。いや、なにもこの山がわるのではない。ごめん。

小泉分岐を過ぎ、白雲分岐に到着。白雲岳避難小屋まではすぐだ。まだ時間もあるので分岐にリックをおいて白雲岳に登る。ここの展望も申し分ない。



（コマクサ）（山も雲も）（花も）

避難小屋には早く到着したのでそれなりの場所を確保した。大雪山系で唯一管理人のいるのがこの白雲岳避難小屋だ。ビールがあれば買いたいところだ。かつて私が、ないと言われた飯豊山の避難小屋で管理人からビールをゲットしたことがある。このことを覚えていたメンバーが、それをけしかける。若くて優しいような管理人に無理を承知でたのんでみたがダメだった。持参の日本酒とウイスキーで乾杯した。

今回持参した飛田のヒットは、味噌汁の具。コープこうべで買った。1袋で味噌汁30杯というもの

で、値段も手ごろだ。スープ類に多用した。お通じの良くない sai さんもこの具のおかげで具合がよかったということになっている。はい。

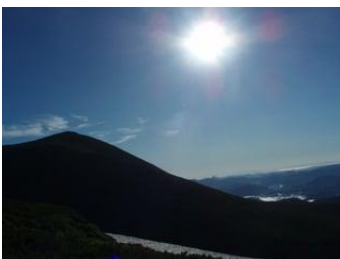


(なんじゃ、これは) (雲だ) (ききょう系)

避難小屋には、おばさん10数人のグループが泊まっていた。私たちと同じくトムラウシに行くという。食料持参の山行はきついものだが、パックツアーで主催者が荷物を運んでくれて、朝夕の食事も結構美味しそうなものをだしていた。チラッと覗いたら、デザートまであった。リーダーもその助手たちも若い。山好きの彼・彼女らの仕事になっているようでいいことだと思った。ただ、おばさんたちは、うるさかった。

深夜、おしっこに起きて空を見たら満天の星だった。寝袋にもどっても、避難小屋の天井に天の川が映っているのである。これは、幻影か、緑内障か・・・。

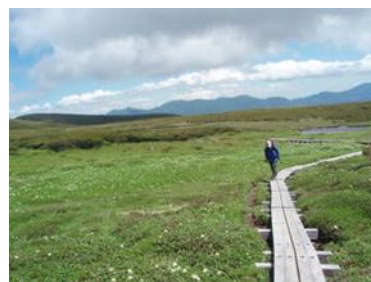
二日目、24日(火)、白雲避難小屋で簡単な食事をして出発。出発してすぐ、板垣新道への入り口には熊が出るので侵入禁止との看板。我々は稜線を高根ヶ原に向かう。アップダウンの少ない道だ。風がけっこう強いが快適だ。高根ヶ原分岐から三笠新道をくぐればヤンベ温泉。稜線から見ればとてもよさそうだが、このあたりにも熊がでるので進入禁止の看板があった。



(朝日が昇る) (熊出没、熊に罪はない) (快適な稜線)

出発してから5時間ほどで忠別岳(1962M)、天気もいいしルンルンだ。稜線から少しくだったところに忠別避難小屋があるが我々は更に進む。五色岳(1868M)、整備された木道を歩いて化雲岳(ケウンダケ、1954M)へ。この間の高山植物も素敵だが、風が強いのであまり撮影はできず。

ヒサゴ沼分岐からヒサゴ沼避難小屋に下る。けっこうな急坂だ。ヒサゴ沼は予想以上に大きく、予想以上にきれいだった。北アルプスの鏡平など問題にならない（失礼しました）。



（ヒサゴ沼、トムラウシ）（快適、快適）（木道もいい）

我々は3時ごろに着いた。おばさんたちのグループは2つに分かれていたが、遅いほうの班も6時前には到着した。この日のコースはけっこう長いコースだったので、少々心配したのである。この避難小屋では2階にスペースを確保した。無人の避難小屋である。乾杯用のお酒もなぜかなくなっていたので、夕食をとってそのまま寝た。深夜のおしっこタイム、この日も満点の星だった。天の川もよく見える。

三日目、25日（水）、いよいよトムラウシだ。日本百名山のひとつで人気がある。百名山に大雪山とトムラウシが入っているが、大雪山という山はなく、大雪山系に旭岳とトムラウシがある。大雪山とトムラウシではおかしいとは、aiさんの論である。そのとおりだ、なんとかしてくれ・・・。



（ヒサゴ沼）（どこから見てもきれい）（きれいな花、ヒサゴ沼湖畔）

まずはヒサゴ沼からの登りである。すぐにけっこう急な雪渓が現われる。滑ったらそのままヒサゴ沼にドボンという感じである。私は、雪渓は苦手だ。さきほどすれ違った、スコップをもった若い男性が、雪面に階段を作ってくれたようだ。安心して登れた。その若い男性は、私たちより早く出発したおばさんたちのツアーのスタッフのようだ。ツアー参加者のために階段をつくってくれたのだろう。感謝、感謝。

稜線付近では大きな岩がごろごろとしており歩きにくい。私の足どりはふらついている。朝早いから三

半規管がまだ眠っているのか、加齢によるものか、いずれにしても決して二日酔いではない。アルコールがなかったのだから。

稜線を南下してトムラウシに向かう。「日本庭園」とよばれる一帯は、本当にきれいだった。昨年、薬師岳から登った雲ノ平のような雰囲気だ。でもここの方が、格段に花が多い。



（日本庭園の花）（トムラウシだ！！）（トムラウシ山頂の穴）

楽勝のトムラウシか、と登っていったが最後はきつかった。大きな岩をかき分けかき分け登っていくのだが、霧もでてきてルートがときどき分からなくなる。目の前に大きな「X」印をみつけた。道をまちがったと思って足跡たどり少し下ったら、更に間違った。ガイドブックに書いてある通り山頂付近は間違いやすいのである。登り返すのに少々骨がおれた。

トムラウシの頂上（2141M）で休んでいると霧が晴れてきた。ラッキーだ。来し方をながめては、自分をほめてやった。韓国式にキュウリを食べて記念写真をとってもらった。日本のハイキングにはレモン、韓国のハイキングにはキュウリなのである。

※このあたりでブログの文章制限を越えたのか、おかしくなった。続編を「ハイキング生活く5>大雪／トムラウシ2」に掲載することにする。よろしく。

●2 大雪／トムラウシ2

トムラウシの頂上（2141M）で休んでいると霧が晴れてきた。ラッキーだ。来し方をながめては、自分をほめてやった。韓国式にキュウリを食べて記念写真をとってもらった。日本のハイキングにはレモン、韓国のハイキングにはキュウリなのである。

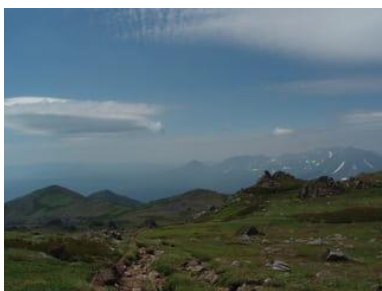


（トムラウシのキュウリ）（トムラウシ山頂）（急坂をおりた）

別れを惜しみながら、南に下山する。けっこうな急坂だ。途中、高山植物の真中で弁当をひろげている中年男性のグループに、若い人がコースに戻るように注意していた。中年男性たちはしぶしぶ戻った。同行のsakaさんによると彼らはトムラウシ頂上で酒を飲んでいてグループだった。酒はいいが（うらやましい・・・）、コースを外れて弁当を広げるのはよくない。アルコールが醒めてから反省してくれていればいい。

「トムラウシ公園」で休憩した。とてもいいところだ。自然がつくりだすこんな公園がありうるのか、という感動である。だがカメラのバッテリーがなくなってきた。すでに前日に、私の予備のバッテリーも力を失い、たまたま同じオリンパス（浅田真央ちゃんのCMのもの、私は安藤美姫の方が好きだが）のsakaさんに貸してもらった分も風前の灯火となっていた。メモリーはフンダンにあったのに、きれいな写真をたくさんお見せできないのが残念だ。

急坂をどんどん下り、コマドリ沢に入る。水筒の水までなくなり、「要煮沸」の沢の水も内緒で飲んだ。ぜんぜん、大丈夫だった。川沿いの道をルンルンと下るのかと思っていたと、とんでもない巻き道があった。自然の厳しいこの地方で、夏道のために沢道を整備するのは大変なのだろう。ガイドブックには、増水時危険とあった。そうだろう。巻き道のあとは、無味乾燥な？尾根道をどんどん下ることになる。まあ、しかたないか。



（西の山々を望む）（最後の高山植物？、おいしそう！）（バスは一日二本）

最後の部分でタクシーをよんで、1時間ほど楽する手もあるが、我々はただただ歩く。そしてトムラウシ温泉にゴール。久々のビールで乾杯した。

ここで1泊。なかなかいい国民宿舎・東大雪荘だ。露天風呂も大きくて気持ちがいい。夕食でさらに乾杯し、早々と就寝したら朝まで寝てしまった。加齢のせいで、一定時間寝ると目が醒めてしまう。あるいは、寝つつけるにも若者の体力がいるという説もあるが、登山の疲労がそれらを乗り越えたのか。

四日目、26日（木）は予備日だった。好天に恵まれたのでうまいこと余った。早割りチケットを購入してきたので、1日早く戻るわけにもいかない。私は札幌に向かう。駅に広い観光案内所があり、コンピュータも備えてある。100円だ。飛行機は翌日の昼、ホテルをとらねばと、100円を入れて始める。最後のところで時間切れとなった。財布にもない。あえなくダウンで、両替をしてから再スタートした。100円にしては短すぎる気がした。時間制限のことはどこにも書いてなかった。



（北大のポプラ並木）（北大農場のカラス）（北大のバイオトイレ）

北海道大学のすぐ東のホテルを予約する。まだチェックインには時間がある。案内所でボランティアのおじさんにサイクリングのことを尋ねたら、奥から残部僅少の札幌サイクリング地図をもらってきくれた。謝々。

駅ビルの映画館でハリーポッター5のチケットを購入して、1階下のレストランへ。映画のチケットがあれば生ビール小がつくという。しかたなく？お願いします。サイクリング地図をにやにやと眺めながら食事。至福の時間だ。札幌から支笏湖まで50Kの専用自転車道がよさそうだ。<http://www.edita.jp/bicycle/one/y-ina51.html> を参照のこと。その地図は案内所の棚には置いてないがとてもいいぞ。

ハリーは、第一作ほどの感動はなかった。当たり前か。

ホテルにチェックインしてから北大を散歩。さらに南下してすすき野へ。風俗条例が厳しくなったのか表通りでの客引きがなくなっているのんびりと歩ける。以前、男一人でウロウロしていると同じ客引きに何回もつかまって、最後は地下道を歩いてホテルに帰ったこともあった。

札幌ではスープカレーが人気とのaiさん助言にしたがって夕食はそれにする。中辛を注文した。なかなか刺激的な美味であった。

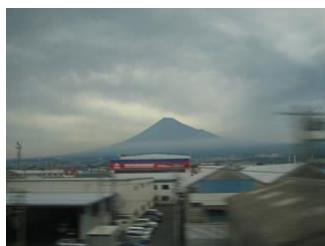


（札幌大通公園のビアガーデン）（北大のクラーク像。おじさんも、それなりに、大志を抱け。）（愛靴もごくろうさん）

これも ai さん情報で大通り公園のビアガーデンに行ったがすごかった。札幌にこんだけの人間がいるのか、という感じ。若者も多い。手前がサントリーで、一番奥がサッポロだった。不公平があるのではと心配？したが、全部満員であった。ひとりでビアガーデンはいただけないので、パスしてホテルでのビールとなった。

下山後、なぜか新聞が読みづらくなった。ド近眼の私はいまでも老眼鏡とは無縁で、近々両用メガネ（上部が遠景用、下部が新聞用）である。読みづらくなった理由が分かった。山で、パソコンも使わず綺麗な景色（遠景）をたくさんみたので、目がよくなったのである。あの夢のような山行からはや二週間、私の目はもうふつうの近眼にもどっている。

● 3 幻の「越後三山縦走」



（東京行きの新幹線からの富士山）（なんと、越後湯沢駅構内にあった貸自転車）（効用に「通風」があったので3回も入った）

7月末（2008年）、挑戦した。メンバーは、さい、さか、あい、それにゆうさんの4名。

1日目、前泊の新潟県六日市の旅館「魚とし」を早朝に出発。宿代は、1万円。まあまあの料理だった。

朝5時半起床、7時にタクシーで出発。大崎道の里宮まで行く。

いきなりの急坂の登り。ここ2、3日のアルコールがすべて出尽くした。



（高山植物のかわりにきのこ）（このあじさいも、どこにでもある・・・）（でも、これは、きれい）

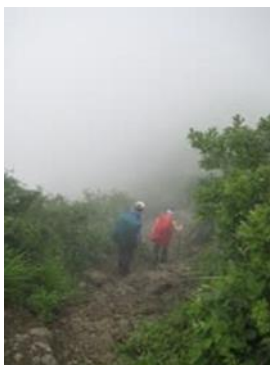
金剛霊泉は、本当に美味しい水が出ていた。

さらに登ると八海山のケーブルカー駅に着く。ケーブルで来たらよかったとの声もあった？



（ここまで、船が・・・）（ひとやすみ）（赤い実）

女人堂に到着。まだまだ？余力が？ある？？



（女人堂）（霧中の行進・・・）（薬師岳。が、眺望はなし）

薬師岳山頂 1 は、いい感じだった。

そして、今夜の宿・千本槍小屋。ここは素泊まり2000円、となりの八海山避難小屋は1000円。650円のビールもあった。



（一茶の句？）（4人で貸切の千本槍小屋）（小屋をあとに・・・）

両方を管理しているのが、上村さん。山道のことをたくさん教えてくれた。でも、越後方言がきつく、我々の理解度は、70%。

もっとも印象的だったのが雷の話。雷の多いこの地域では、雷が鎖に落ちる場合がある。そのときは鎖の根本に落ちる。だから、鎖を登るとき、一度ひっばってしてから、大丈夫だと確信してから登るようにとのこと。

上村さんより、中の岳までは時間がかかるので朝ごはんも食べずにすぐ出発するように、という助言があった。が、小屋でゆったりと朝食をとった。買いだし担当のあいさんが、豊富な朝食を準備してくれているのだ。

でも、それなりの時間に出発。予定では、三山の2つ目、中の岳まで縦走。ベテランの上山さんでも5時間は切ったことがないという。コースガイドでは、14時間。ヤマケイの本では、12時間半。いずれにしても、アップダウンもすごいし、時間もかかりそう。



（一瞬みえた八峰）（また、きのこ。高山植物のかわりに映す）（六日町より小出へ。きょうは八海山がよくみえる）

八峰は、山頂コースではなくて、わき道コースを進む。そののち、中の岳に突き進むか、エスケープルート＝新開道を降りるかの決断が迫られた。で、仕事の関係でこの道を降りることになっていたさかさんにつきあって？みんな下山することになった。

この道がけっこう急な下山道。それもどんと下る。ほんとにきつい。

滑らないように降りるのに体力を消耗した。最近、サイクリングばかりしている私は、トレーニング不足がもろにでた。サイクリングと登山では、使う筋肉が違うのだろう。

下山して携帯電話で依頼したタクシーと無事合流。六日市まで乗った。

さかさんは、そこで風呂に入ってから東京へ。さい、あい、私の3名は、縦走後に泊まる予定であった栃尾又温泉の「自在館」に向かう。



（小出でのサイクリング）（わたし、です）（花、です）



（国体にウォーキングという競技があるらしい、そのコースがいい自転車道だ）（登りたかった山をみながら）（川辺の花）



（小出から只見への列車、クーラーがないのがいい）（自在館）（豪華！！）

栃尾又温泉は秘湯で有名なところだ。実際には、秘湯というほどのことはなかったが、とてもいい温泉だった。お風呂に夜2回、朝1回、計3回も入った。@12300円。こんど、尾瀬に行ったら帰りに寄ろうと思う。



（風呂が最高・・・）（これも、いい）（これも、いいのでは・・・）

翌朝、元気なさいさんは、越後三山の3つ目＝越後駒が岳に向かう。階段を降りるのもままならないあいさんと私は、登山を断念。あいさんは、横浜に帰る。

私は、せっかくの休みなので福島県只見に向うことにする。パンフレットをみていたらサイクリングロードがあったので行ってみたいと思ったのだ。

栃尾又温泉から小出にでた。朝8時台の列車に乗ったが、小出から只見への列車は1時40分までないという。ローカル線だ。これでいいのだ。

小出で、貸自転車を探した。ない。自転車店に行った。いま貸せるものはないとの冷たい返事。役所の近くにもう一軒自転車店があるというので、行った。店は開いているが人がいない。2、30分待ったら帰ってこられた。

料金が1500円だという。少し高いですね、というと、1000円にしてくれた。この自転車で小出を回った。2、3時間だったが、ほぼ？乗りつくした。

自転車を返して、小出から只見に向かう。いい雰囲気のローカル線だ。トンネルも多い。ときには蒸気機関車も走るといふ。

着いた。駅に観光協会があった。とても親切だ。貸自転車もあるという。あすの朝まで借りたいというと、OKとのこと。そして、ナント、無料。



(只見の自転車道のクズ) (只見ダム) (只見小学校の少年野球)

その自転車で只見を回った。案内にあったサイクリングロードは特別なロードではなかった。が、車がほとんど通らないのですべてがサイクリングロードだ。スポーツサイクルに乗っている私的には、変速機もない自転車はたよりないが、それなりにいい。クロスバイクでばんばん飛ばしている私の発想もすこし変わった。

雨が降ってきたので雨宿りをした。その前に旅館「逢川屋」があったので、そこに泊ることにした。1泊2食8000円だったが、とてもいい料理だった。客は、私一人だった。少々気まずかったが、おかみがさっぱりとしていて、よかった。



(只見のひまわりと杉) (かわいい菊?) (そして、夕日)



(そして、夕食) (只見で朝にも走りました) (1日2本しかない列車に遭遇)

翌朝、早くからまたサイクリング。ほんとうに只見を走りつくした感じだ。



(朝露1) (朝露2) (中学校の校庭で「朝からゲイトボールをしている」と思ったら、草刈でした。失礼しました。)

8時56分の列車でふたたび小出へ。そこから、「ほくほく線」金沢経由で神戸に帰るのだ。これまたローカル線でいいはずだが、早々とビールをのみほとんど寝ていた。



（朝、只見駅で発見して喜んだら、逃亡した売り物でした）

金沢駅でのこと。

サンダーバードの乗車表示に従って30分ほど前から並んでいた。前には家族連れもいる。その後、いつの間にか表示が変わって別のところに乗客が並んでいる。気がついた私は、すぐ前の欧米人の青年にそのことを伝えて並びなおした。

家族連れなどがまだ気がついていなので、また、そこにも情報を伝達。けっきょく、みんな座席を確保できたが、できなかつたら「怒」らなければならないところだ。駅員に、表示が間違っていたことは、一応伝えておいた。その駅員はちゃんと話を聞いていた。まあ、いいだろう。

この間、アナウンスが何回かあったが、かんじんの「ごめんなさい、表示がまちがっていました」がないのだ。これがいけない。

やがて、大阪に着いた。ここでもおせっかいの私は、寝込んでいる青年に「着きましたよ」といって下車した。はい。

越後三山縦走は果たせなかったが、充実した山行だった。ただ、この山、八海山しか知らないが、高山植物がない。山登りの興味が半減だ。失敗した縦走は「リベンジだ」となるが、この山はもういいかなという感じだ。

サイクリングはするが、ハイキングは、ほんの「ちんたら登山」の私が、急に10キロの荷物を担いでの登山。58ともなると無理があるのかもしれない。また、六甲登山を再開しようと、急坂をよぼよぼと下りながら考えたのでありました。

●4 ハイキング生活 幌尻岳

7月末（2009年）、北海道幌尻岳に登った。日本100名山にも入っている山だ。日高山脈の中ほどにある。メンバーは、いつものsaiさん、aiさんと私。今回は、厳しい山なのでガイドとポーターをそれぞれ1名、お願いした。

北海道の山は、日本アルプスのように食事付の山小屋はない。幌尻岳もそうだ。saiさんの、加齢問題を考えるとぜひ今夏やりたい、に应运えてやることになった。

<第1日>

7月27日、帯広のホテルに集合。近くの居酒屋で、前夜祭をした。おいしかった。



（千歳空港でのおむかえ）（居酒屋です。さかながおいしい・・・）（登山開始、花もきれい）



（高山植物でないような花も）（伏美岳に向かう）（このテントに寝ました）

<第2日／7月28日>

朝、ガイドが車でホテルに迎えに来てくれた。伏美岳登山口に向かう。前日までは雨模様だったが、よくなってきた。うれしい・・・。快調に、伏美岳に登る。

さらに進み「水場のコル」でテントをはる。といっても、ガイドさんが張ってくれる。らくちんらくちん。夕食も作ってくれる。こんな登山をしてもいいのか、とも思うが、テント等の装備を担いでの山行は、無理なような・・・。そして、就寝。

<第3日／7月29日>

きょうは、長丁場。朝食を早くすませて出発する。ピパロイ岳、1967峰、北戸鷲別岳（きたとったべつだけ）、戸鷲別岳と快適に登り、七ツ沼カールと進んだ。このカールは、ステキだ。テントに泊る。



（ピパロイ岳です）（アブもいっしょに）（aiさんのマスコットも）



（七ツ沼が見えてきました）（池／沼もきれいです）（ヒグマです。今回、全部で8頭みました。小熊はほんとに可愛い。2～300メートル離れていたのよかったが・・・）

<第4日／7月30日>

いよいよ幌尻岳の日だ。それなりの快適に登り、無事、登頂した。バンザーイー……。360度の展望を満喫した。幌尻岳はお花畑もたくさんある。



（幌尻岳です。いい天気です。）（ききょう系・・・）（千歳空港で買った熊ラーメン）

下り道で、我がガイドが、別のグループのガイドと話している。

別グループのガイドの話。

「トムラウシの遭難事件の日、ツアー客と幌尻岳に登ることになっていたが、天候が悪いので中止した。客たちが文句をいっぱい言った。夕方、宿に戻るとトムラウシ遭難のニュースがテレビにでて、私の株がぐっとあがった。」

命の水、取水ダムそして、17、8の渡渉だ。普通は膝ぐらいまでとのことだが、この日は、2日間の晴天で水量が減ったとはいえ、そこそこある。一番深いところは、ベルトぐらいまである。ガイドさんのお陰でなんとか渡ることができた。

登山口につき、迎えの車で沙流川温泉に向かった。日高高原荘に泊る。

<第5日／7月31日>

余韻を楽しみながら、バスでJR占冠駅に向かう。

そして、千歳空港から飛行機に乗りました。

ガイドさん、ポーターさん、お世話になりました。

saiさん、aiさん、また、来年も行きましょう。。。。。

【幌尻岳・付録】

7月27日から北海道幌尻岳に行っている。その記録を書き始めているのだが、完成しそうにない。が、感動が薄れる恐怖感から、小出しに？書いてしまうことにする。

ヒグマを見たのだ。それもナント8頭！！！！

テントに2泊の日程の最終日、快適に歩いているとガイドさんが、ヒグマだ、という。近眼の私には見えない。なんとかその方向に目を凝らすと見えた！！ 茶色い大きなヒグマだ。4、5百メートル下にいる。しばらくして悠然と木に隠れた。

鹿もいた。望遠鏡で見ると目と目があった。ほんとだ。

その後、裸眼でも、よく見える。その鹿と、目と目がその後もあいっぱなしだ。鹿は急坂を下っていった。ほんと、うらやましい。われわれは、はあはあと歩いているのに。。。。。

次の熊は、親子3頭。谷をはさんで3、4百メートル下で遊んでいる。母熊と子熊2頭だ。茶色だ。いや感動だ！！！！ ずっと見ていた。

こんなにヒグマを見るのは珍しいとガイドが言っていたが、またいた。今度は、2、3百メートルだ。真っ黒の3頭で、同じく母熊と子熊2頭だ。テレビでみるパンダのように、じゃれあっている。われわ

れに気づいているのかどうか分からないが、お構いなしにあそんでいる。母熊のまわりを走り回っているのである。

7頭のヒグマを山中でみて、下山。温泉で乾杯をして、泊まり。翌日、JRの駅にバスでむかった。その途中、8頭目のヒグマをみたのである。バスのすぐ目の前、4、5メートルだ。

バスの運転手は、子熊なので近くに親熊がいるという。そのあたりは山菜とりに地元の人がよくでかけるところだという。駅の手前、2、3キロというところか。運転手は警察に通報するという。かわいそうだが、仕方がないとのことだ。おそらくその親子は猟友会によって射殺されたのではないかと思う。熊にはなんの罪もないのに・・・・・・・・。

2組の親子ヒグマ、と老ヒグマさん、山で元気に暮らしてください。

●5 野口五郎岳、行ってきました

恒例の7月（2011年）の登山に行ってきた。台風一過、すてきな天気??
予定コースは、以下のとおり。

7/24 信濃大町～タクシーで高瀬ダム～晴嵐荘

7/25 晴嵐荘～野口五郎小屋 登り6時間ほど

7/26 同小屋～水晶岳往復～鷲羽岳～三俣山荘

7/27 同小屋～双六小屋～笠ヶ岳山荘

7/28 （小屋周辺で散歩ゆっくり） 下山 新穂高温泉 泊

7/29 帰宅

メンバーは、さいさん（リーダー）、あいさん、それにこの登山は初参加の自転車ともだちのいけさん、そしてゆうさんの4名だ。



（道祖神。ちひろ美術館の近くにありました）（大糸線、信濃大町につきました）（タクシーで高瀬ダムに行く途中の検問所?で、登山届を専用ポストに入れました）

2日目、急坂を野口五郎小屋まで登る。
トレーニング不足が身にしみる・・・。

さて、3日目。天候が安定しない。
三俣まで行って、荒れたら、奥まったところなのでつらい・・・。

で、縦走をあきらめて、
野口五郎小屋から烏帽子小屋、北アルプス三大急坂（ブナ立山道）をおりて、再び高瀬ダム。
そして、タクシーで大町温泉郷へと向かった。

最後の下りは、結構、足に来ていた。
強行突破していたら、笠ヶ岳の下りはさぞ、たいへんだっただろうと思う。

大町温泉郷は、よかった・・・。

ああ、よかった。

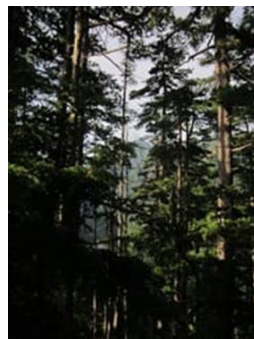
今年一年は、トレーニングして???、来年は、ちゃんと登ろう・・・。



（高瀬ダムにつきました）（1976年?完成の揚水式ダムです。立派な重量式です）（タクシーの運転手にシャッターをおしてもらいました）



（山岳マラソンのトレーニングをしていました）（ダム湖畔の舗装道がおわって、いい感じです）（晴嵐荘までできました）



（この橋は、ひとりずつ渡らなければならないことが、あとで、分かりました）（はい、1日目は楽勝です・・・）（2日目、急坂を登ります）



(キノコもあります) (花もちらほら・・・) (湯股岳です。ピークらしいピークはありません)



(得意のきゅうりとマヨネーズ、です。)(だいぶ登りました)(しゃくなげがたくさんありました。「立てばピア樽、すわればたらい、歩く姿はガスタンク」ということを昔聞いたことがあります。)



(山を越えると雲はなくなります)(野口五郎岳です。「一曲、どうぞ」という調子のいいおじさんが、いました)(こういうところ)



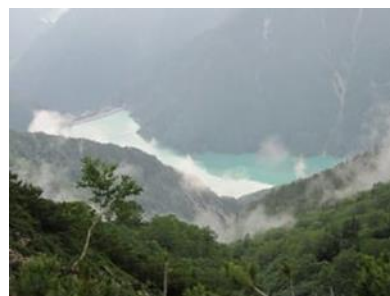
(野口五郎岳小屋につきました)(なかなかの夕食です)(この部屋に泊りました。この山の山頂には行けませんでした)



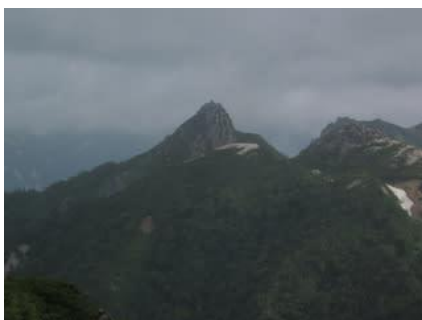
（翌朝、残念ながら下山することになりました）（もちろん、お花畑コースをいきます）（女王・こまくさ、です。）



（きれいです）（エーデルワイズ系です）



（アップです）（左の帽子が烏帽子岳です）（高瀬ダムがみえてきました）



（烏帽子岳、望遠です）（鮮やかなみどりです）（よくある花です。かわいいです。）



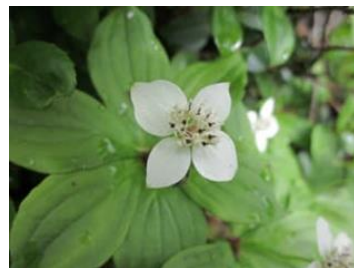
(おいしそうです・・・) (この花もたくさんありました) (烏帽子小屋前の・・・ききょう、です)



(小屋の方々がきれいにされていました) (コーヒーをのみました。おいしかったです) (この烏帽子小屋からおりました)



(虫もきれいです) (花です・・・) (これも、です)



(たくさん、あります) (・・・) (これもエーデルワイズ系??)



(かわいい実です) (ふむ・・) (ふむ、ふむ・・・・???)



(ブナ林をくだります) (はい、ゆうさんらは、下ってきました) (ほうほうのていで、高瀬ダム、です)



(大町温泉郷までタクシーでした。運転手さんが「温泉」と「温泉郷」の違いを教えてくださいました。そこに湯がわくのが温泉で、湯をひっぱてきたのが温泉郷ですって・・・。)(夢の湯に泊りました)(猿が自動ドアをあけて入ってくるようです・・・)



(一泊二食で、豪華な食事でした。ほんと・・・。)(コンサートもありました)(この方の、なつかしのメロディーでした。ゆうさんも七つの水仙などリクエストしました)



（翌日、ひちろ美術館にいきました。この駅からちひろ美術館にいけます）（レンタサイクルをかりました）（美術館の近くにありました）



（地図です）（庭も広です）（美術館の入口です）

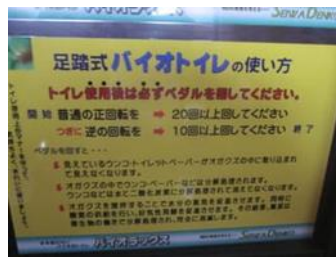
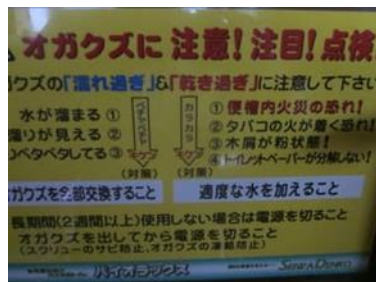


（入場料を払うとこれを受け取ります。一日何回でも入場できます）（ロケーション、抜群です）（・・・）



（館内では写真がとれませんでした、ステキな椅子がいろいろありました）（この奥山は、安曇野だったのですね・・・？）（ここまでサイクリングして来たら、お休みでした）

●6 越後駒ヶ岳のサイクリング？



（用事ののち、自転車を前に20回、後ろに10回、こぎます。そうすると、目の前で、関係物が、おがくずに埋まります。）（よくできています）（ほんとに・・・）

7月23日（月、2012年）～27日（金）、越後三山の駒ヶ岳と中の岳に登ってきた。
梅雨明けのばっちりの天気、とはいかなかったが、いい方だろう。

メンバーは、いつものさいさん（リーダー）、さかさん、あいさん、そして私・ゆうさんの4名だ。
初日、さいさんとゆうさんは、名古屋から自動車で自在館。さかさん、あいさんは、東京から自動車だ。

自在館は、以前、同じく越後三山の八海山縦走に失敗したのち、泊ったところだ。

自在館で、夕食、そして、おいしい酒。

翌朝、4時に起きて、弁当持参で出発、のつもりが、部屋でおにぎりの弁当を食べてから5時過ぎに出発。

前年の豪雨で枝峠までの道は閉鎖されていたが、奥只見シルバーラインというトンネルで行くことができた。

工事用のすごいトンネルだ。

標高差千メートルを一気に???、登る。

ほうほうの体で、駒ヶ岳避難小屋につく。

管理人さんがいたら、ビールが飲めるはずだったが、残念ながらその日は、下山されていた。

トイレがすごい。大感動だ。

そのトイレが、かの?、サイクリングトイレだ。

深夜、おしっこに起きたら、星が見える。

朝、期待をもって起きたら、ほとんど見えない・・・。

歩きだす・・・・・・。

この駒ヶ岳、中の岳コースは、難コースだ。

ほんま・・・。

解説書をあとで読んでみたが、そのようには書かれていない。

でも、われわれの体力が落ちていただけなのか・・・。

でも午後の早い時間に中の岳避難小屋につく。

当初、一日目に駒ヶ岳経由で、午後に中の岳という計画を立てていたが、そうしなくて、よかった。

早く寝る。

が、寝付けないので、ラジオでなでしこサッカーを聞く。

ちょうど、点が入った。ラッキー！！

また、夜中、外にでる。

星はでている。

が、あさ、ほとんど何も見えない。

が、中の岳小屋から駒ヶ岳に出発。今日中に下山だ。

長丁場だ。

最後まで、膝が持つか、不安だった。

が、なんとか、ついた。

六甲山トレーニングもせずに参加したゆうさんは、息がすぐ上がるし、登山靴がだんだんと重くなってくる。

でも、膝が最後までもったのは、ゆうさん式、バス・電車スクワットのおかげかもしれない。

毎日100回、スクワットをするというあいさんから刺激をうけて、ゆうさんも始めたが、続かない。

駅のホームでスクワットをするのは、恥ずかしい・・・。

で、椅子に座って思いっきり、太ももが震えるほど床を押し付ける。

はい、20秒・・・。

これを結構繰り返した。

前に座っていた人は、なにやこのおっちゃん、むずむずしてる？？？、と思ったかも知れないが、ほとんど、分からないはずだ。

バスでも電車でもできる。

名付けて、「ゆうさん式、バス・電車スクワット」だ。

下山後は、日本三大薬湯の松の山温泉・凌雲荘に泊った。

とてもよかった。三大とは、有馬、草津、松の山とのことだ・・・。

山菜料理がいい。宿のおかみ案内のホタル会（この時期にまだです・・・）もある。

私たちは、飲み過ぎて、参加できず・・・。

多くの課題を残しながらも、恒例の登山会は無事終了したのでありました。

メモ

- 1) この日のために買ったモンベルのダブルストックを忘れた。下りがしんどかった・・・。
- 2) スパッツをわすれて、ズボンがびしょびしょになり、靴にも水がびちょびちょで、気持ちが悪かった・・・。
- 3) 「ゆうさん式、バス・電車スクワット」の反対、
登山靴を持ち上げる力を鍛える、目立たない方法を研究・実践しよう・・・。

さいさん、さかさん、あいさん、ありがとうございました。
来年もよろしくお願いします。

●そして、ここからは、山の写真です。



(自在館です) (枝折峠です) (尾瀬へは車です・・・)



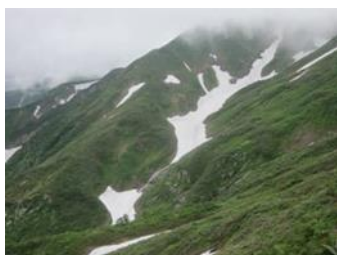
(「はああ、きました」) (まだ、1. 2キロです) (高山植物があります。名前はよく分かりません。以下、同文・・・。)



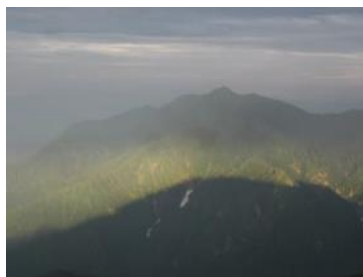
(只見湖がときどき見えます) (・・・) (・・・)



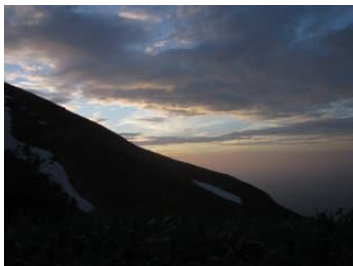
(数年前、朝日連峰にきたときには、日本中の赤とんぼが登って来たのかとおもいました。今回は、新潟の地元から・・・。) (はい、エネルギー補給です) (・・・)



(・・・) (豪雪の今年、けっこう残っています) (・・・)



(駒ヶ岳小屋につきました。げんき??です) (ここの夕食は、ゆうさんの担当でした。雑炊が気圧の関係でパンパンです・・・) (駒ヶ岳の影が映っています)



(夕日が沈みます) (月がとっても蒼いから・・・) (駒ヶ岳小屋、出発です。)



(これは、ニッコウキスゲ?) (・・・) (ときどき、見えてきます)



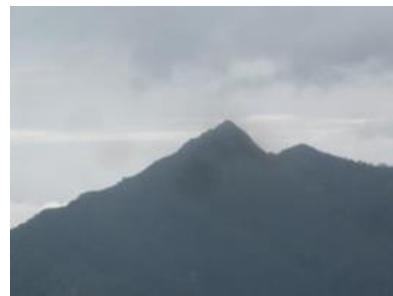
(・・・) (・・・) (・・・)



(・・・) (ブルーベリーではありませんね・・・) (・・・)



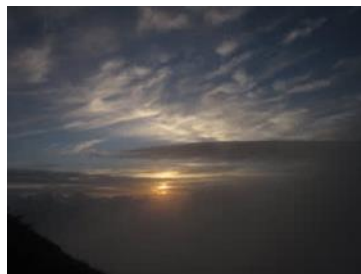
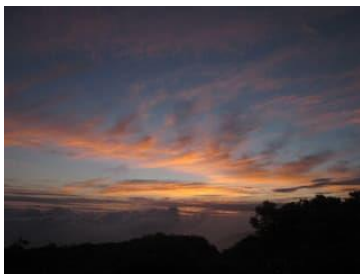
(・・・) (あいさん(左)とゆうさん、がんばっています) (はい、たいへん、でした・・・)



(・・・) (・・・) (いいですね・・・)



(黒ユリ?、ここだけでした・・・) (・・・) (しゃくなげ?)



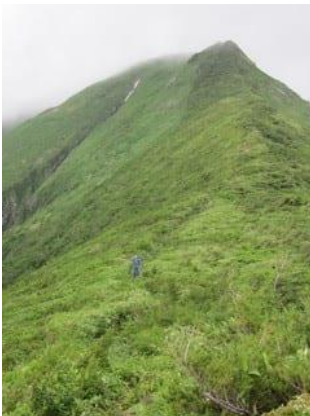
(夕日がないている・・・) (はい、もう沈みます) (中の岳小屋、出発です・・・)



(・・・)(駒ヶ岳、二セ頂上です)(・・・)



(一部、秋でした・・・)(松の山温泉、凌雲荘です)(翌日、棚田をみにいきました)



(登ります)(美人林です)(ぶな林がすごいです・・・)



(美人林喫茶店のトイレです、はい、そのとおりです・・・)(高速サービスエリアで初めてソバを食べました。現地は、もっとおいしかったろうに・・・。)(ビールごみ、です???)

はい、ごくろうさまでした。

●7 ユングフラウ、マッターホルンがほほえむ！？
～スイストレッキング紀行～（2018年夏）



スネガからマッターホルンをのぞむ

①08/29(水)<いよいよ、スイスだ>



フィンエア／ハイジの世界／チーズフォンジュ

メンバーは6名。登山仲間5名（A B C D & 飛田）とAさんの奥様だ。登山仲間は、いっしょに結構登っている。南北アルプス（日本です）、飯豊山、朝日連峰、八海山、鳥海山、トムラウシ、旭岳、知床連山などだ。年齢は私がいちおう最年長だがあまり変わらない。「体力、時間、お金」を考えたら、今年しかないだろうと実行することにした。

8：20、私は三宮からリムジンバスで関空へ。10：15着。順調だ。

10：40、荷物検査、入管を通過する。家でズボンをはき替えた時にベルトを忘れた。まあなんとかなるか・・・。

10：55、離陸、快晴。フィンランド航空（フィンエア、AY）78便、ヘルシンキ行きだ。関空からは、関西組のBさんといっしょだ。あとは、成田から2名とヘルシンキで合流。あと2名は、ドイツ・フランクフルトに入り、目的地のチューリッヒで合流だ。



飛行機のテレビ画面、北極ルートだ、犬の映画、ペレの映画を観ました

フィンエアの飛行機は快適だ。映画を2本観た。①犬の映画、奥様が好きで買った犬、大変ドタバタするが最後はご主人との心温まるお話。②ペレは、「靴磨きをしていた時代から、ブラジル代表委チームを率いるまで、一躍スターになったペレの華麗な経歴を描いたドラマ」。おもしろかった。飛行機内の音が気になるが、持参の耳穴密封式のイヤホンで聞くと具合よかった。また、愛用のKENWOODのウォークマンで、中島みゆき、桂三枝（現・文枝）などを聞く。

ヘルシンキまで9時間45分、当地とは時差が7時間なので、現地時間14:38到着。行きは、1日が長くなるだけなので頑張って起きていればいいので楽だ。ここで無事成田発の2名と合流、フィンエア/AY1513便でチューリッヒに飛んだ。フィンランド・日本の時差が6時間、スイス・日本の時差が7時間。日本から西にいくと、中国1時間・・・、と時差ができるはずなのに、なぜか、日本に近いスイスが時差7時間、少し遠いフィンランドが6時間。なんぼ頭をひねっても分からないのでやめた。スイス時間、18:15、チューリッヒ空港に到着した。

空港からチューリッヒ市内まで電車で15分。間違っってひとつ手前の駅で降りてしまったが再乗車して、問題なし。私たちはスイスレールパスを買っている。何回でも乗り降り自由だ。パスは、一等車用が78,900円、二等車用が49,800円、我々は二等車用にした。

スイスの汽車は韓国と同じで改札がない。でも、無賃乗車が見つかるの大変らしい。

チューリッヒアドラーホテルで、6名合流。駅から徒歩10分程度の便利なところだ。チーズフォンジュを食べ、ワインで乾杯した。

長い一日を終え、熟睡した。

②08/30(木)<アイガー北壁がぼっち>

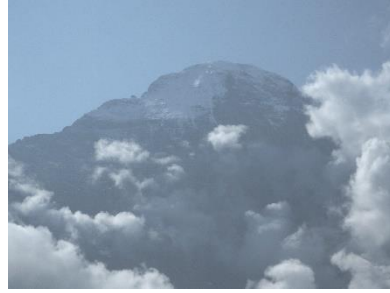
きょうは、山岳地帯への移動日だ。

7:00、ホテルで朝食。チーズとハムの種類が多い。うれしい。

9:20、チューリッヒ中央駅からグリンデルワルトに向かう。Aさんがネット接続のタブレットを持参、かつ、スイス鉄道検索が上手で、旅行中ほんとに助けられた。ベルンともう一カ所で乗り換えて、湖の街・インターラーケンへ。そこから登山列車にのってグリンデルワルトについた。12:30頃。ほんとに途中の景色もすばらしい。「ハイジ」の世界そのものだ。

駅前から少し歩くと、テレビでよく見たアイガー北壁がよく見える。こんなに街から近いとはびっくりだ。

宿泊のベルナーホフホテルは、駅から3分という感じだ。隣が日本語の観光案内所で、便利だ。だいぶ情報を仕入れた。



日本語案内所／アイガー北壁／ホテル入口

ランチは、私はスパゲティー、値段は高いが1人前の分量が多い。

午後、山に登る。天気はいまいちだが、まずは小手調べでフィルストに登る。登山、トレッキングコース担当は私だ。事前に『地球の歩き方』を読んで仲間にレポートを送ったら、そのようになってしまった。

山頂までロープウェイで登ったが、何も見えない。フィルストからグリンデルワルトの街まで、歩くと3時間程度。3つの部分に分かれている。第1区間は天候不良でパスしてゴンドラで降りた、第2区間、まあまあ視界がきくようになったので歩いた。約1時間。下りばかりでルンルンだ。下り専用のカート（4輪）でわいわいと降りてくる人もいる。



カート／アイガー、COOPです

途中で足を痛めたAさんが、この第3区間はロープウェイに乗るという。残りのメンバーは歩くことになる。が、下り専用の自転車をレンタルしているのが目についた。Aさんはこれに乗るという。一人だけそれに乗って降りるのは危険だということになり、5人全員が乗ることになった。ハンドル、ブレーキはあるが、ペダルはない。子どもが遊ぶスケーターのようなものだ。ヘルメットも貸してくれる。「安全運転をする」という誓約書も書いた。最初、ふらふらしたが慣れてくるとささいこう、楽しい。あっという間に街まで降りてきた。

実はこのサイクリング、私が予習のために図書館にいて『B-PAL』を読んでいて、見つけていたのだ。事前に仲間に、今回は無理だろうけど乗りたい、と言っていた自転車だ。

ホテルにもどり、再び、アイガー北壁を眺めたがもう見えなかった。朝のその時だけ顔を見せてくれたのだった。

明日にそなえて早めに就寝、おやすみなさい。



寒い／カラスも寒い／ユングフラウヨッホ

③08/31(金)＜ユングフラウがほほえむ？＞

きょうは、終日、グリンデルワルト。憧れのユングフラウだ。

岩をぶち抜いたユングフラウ鉄道でユングフラウヨッホまで登る。所要時間35分。グリンデルワルト1034Mから、登山鉄道でクライネシャディク2061M。そこからユングフラウ鉄道でユングフラウヨッホ3454M。そしてユングフラウは4158M。

が、展望台では、何も見えなかった。残念至極。めっちゃ、寒い・・・。

Bさんの友人でスイス登山のベテランは、「ユングフラウヨッホの展望台は観光客ばかりの展望台でもうひとつ、下のメンリッヒエンあたりを歩いてユングフラウを眺めるのがいい」との意見だった。が、岩をぶちぬいたユングフラウ鉄道には乗らなくてはならない。よくまあ、1900年ごろにこんな鉄道をつくったものだ。スケールは小さくなるが日本でいえば、上高地から穂高岳山荘まで鉄道を作ったようなものだ。分かっていただけのだろうか？

それなりに満喫して復路も鉄道に乗り街に帰ってきた。



花の写真

④09/01(土)＜氷河融水の滝をみて、いよいよテルマットへ＞

この日も天気はもうひとつ。日本語案内所の情報では、雨の日のこのあたりは、①滝、②グレッシャー溪谷、③***（3番目は忘れた）だという。①に行くことにした。登山列車を乗り継ぎ最後はバスにのった。『歩き方』にも「氷河融水の滝（テチュンメルバッハフォール）」と書かれている。洞窟の中の滝で、何しろ水量が多い。ほとんどが洞窟の中なのでいい写真がとれない。



滝／湖散策



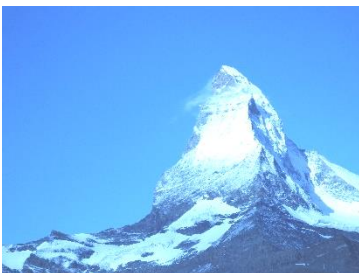
この船に乗りました／ラフティング、湖に流れ込む川、氷河の融水は白く濁っている

昼、インターラーケンの大きなスーパーのレストランでランチをした。
その後、ブリエンツ湖を散策。船にも乗りました。

そして、次は、マッターホルンが待つツェルマットだ。乗り換え2回、約3時間、夕方到着した。
ツェルマットについて私はひとり散歩、マッターホルン博物館に行った。小さいけれどいい雰囲気
の博物館だ。

ホテルは、ラ・クロン。夕食は、*****。忘れてしまった。ワインとビールは飲んだ。

⑤09/02(日) <マッターホルンがほほえむ！>



朝起きる。いい天気だ。ホテルのベランダからマッターホルンが見える。ホテルの前の橋は、街からいちばんマッターホルンが見える橋で、多くの観光客が朝から来ている。我々はホテルのベランダからだ。うっふん・・・。

丸2日間、ツェルマット滞在なので、心がウキウキする。朝食は、おいしいパン、おいしいチーズ、おいしいジュース、おいしい果物だ。

ツェルマット1605Mから、ゴルナーグラート3090Mへ登山電車で登る。足を痛めているAさん以外の4名が、歩き始める。マッターホルンがずっと見えている。次の駅で、Aさん、奥さんと合流。6人であたりを散歩する。

今度は、奥さん以外の5名で下山する。ほんとに天気がよくルンルン気分だ。

次の駅（名前は忘れた）のステキなレストランで昼食。私は、スパゲティーとビール、マッターホルンを見ながらの最高のビールだ。

私は、更にハイキングを続けるBさんCさんDさんを見送って、余韻に浸りながら更にくつろぎ、Aさん、Aさんの奥さんと列車で下山した。

夕食は、中華料理。おいしかった。

⑥09/03(月)<富士山より高い展望台へ、ロープウェイで>

きょうも天気は、いまいち。ホテルからマッターホルンは見えない。でもグレイシャーパラダイス3883Mまで登山列車とロープウェイで登る。



どこにマッターホルンがあるのか分かりません／トイレは有料、2スイスフラン、2ユーロ／氷河公園のKING

展望台では、ま近にみえるはずのモンブランが見えない。残念。が、氷河をくり抜いた公園にはおもしろいものがあった。

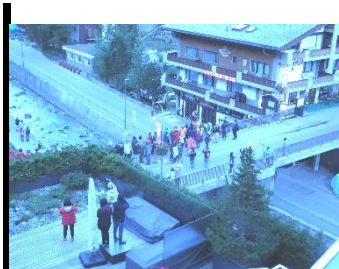
レストランで、大学一年生のE君とあった。大学入学のお祝いに親から1か月のヨーロッパ旅行をプレゼントされ、前日からスイスに来たとのこと。ここの氷河でスキーをするとのこと。

ロープウェイでスバヴァルトツゼー2583Mまでロープウェイで下り、トレッキングを開始した。フリー1867Mまでおり、更に歩くというDさんをおいて、ロープウェイ（ゴンドラ）にのった。人の乗っているゴンドラを2-3やり過ぐすと、なんと、次のゴンドラにE君がひとりで乗っているではないか。宝くじで1000万円が当たるほどの確率か？

ツェルマットでの夕食は、おいしかった前日の中華料理を再訪。



氷河だ！



快適に下山／橋からマッターホルンを見上げる人をホテルラウンジから／マッターホルン

⑦09/04(火)＜スネガで心ゆくまでハイキング、そしてチューリッヒへ＞

この日は快晴。すごい！ マッターホルンがホテルから丸見えだ。ツェルマットからスネガ2288Mまで地下ケーブルカーで登る。なんと標高差800Mを3分半で登る。驚きのスピードだ。スネガから更にロートホルン3104Mまでロープウェイがあるが、それは冬季スキー場のための準備で休んでいた。



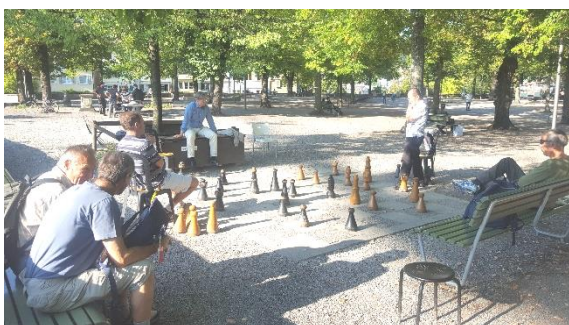
スネガの池

スネガから4名は、更に登って逆さマッターホルンで有名なライゼー湖からツェルマットまで降りるという。私は、ひとり写真を取りながら散歩した。のんびりとした至福の時だった。また地下ロープウェイで降りた。

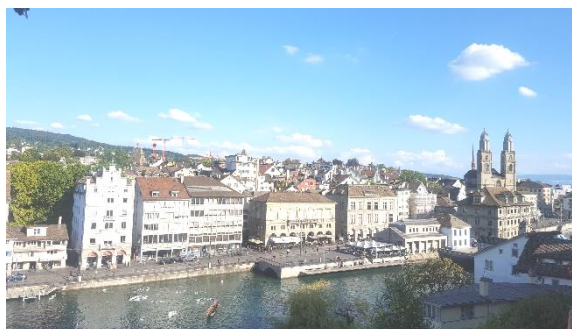
そして午後からチューリッヒに移動だ。ここでもAさんのタブレットと検索能力が大活躍した。



広場でのオーケストラの演奏会



チューリッヒの公園でのチェス/いい天気でした



チューリッヒでは、ひとりで散歩とビール。

夕方、ホテルのすぐ前の広場でオーケストラ、すてきだった。

そして、夕食は韓国料理店に。おいしかった。

そして、夜、ニュースで台風による関空閉鎖のを知る。すぐに再開するだろうと思っていたし、もしまだ関空がだめなら名古屋セントリア空港か福岡空港に降りるだろうと思っていた。が、スマホで調べるとフィンエアの関空行きは、なんと「欠航」。

あせった、日本では真夜中だが旅行会社（一人社長の会社）にメールをし、電話をした。夜中に起こして申し訳なかった。メールはまだ見てないとのこと。口頭で、セントリアか福岡に降りたいとの希望を伝えた。福岡とセントリアには週4便でていると聞いていた。

そして、同じ日の飛行機のセントリア行きがとれたとのこと。うれしい。多くの関空行きの人がセントリアに切り替えようとしただろうから、夜中に社長さんが頑張ってくれたからOKとなったのだろう。スウェーデンで友人に会ってから3日後にフィンエアで同じくヘルシンキから関空に帰るはずのBさんは、セントリア行きの飛行機がなかなかとれず、ヘルシンキにあと2泊することになったとのことだった。うれしい？！

⑧09/05(水)<帰路も飛行機で映画三昧>

チューリッヒのホテルから私は早い目に空港に行った。まだ心配だったので3時間前に行った。カウンターでは、なにともなかったかのようにチューリッヒーヘルシンキ、ヘルシンキーセントリアの飛行機チケットをくれた。

チューリッヒ空港からヘルシンキ空港までは、EU「国内線扱い」の飛行機だった。チューリッヒでは荷物チェックはあったが入管がない。ヘルシンキからの国際線ではどうするのかと思っていたら、海外線トランジット用の通路があり、そこでは荷物検査なしの、入管チェックだけがあった。

帰路も飛行機では映画三昧。阿部寛主演の映画を2本みた。「恋妻家宮本」「祈りの幕が降りるとき」。中身は忘れたが面白かった。

スイスと日本の時差7時間は心配だった。今回成功したのが「時計2つ」作戦。ひとつを日本時間のままに置いて、日本に電話をかけるときなどの便利だった。そして、帰る日には、日本時間の時計だけを見るようにした。もう夜の11時、12時まわったなとかいう感じである。よく寝ることはできなかったが、頭の中はずっと日本時間だったので時差ボケが少なかったと思う。

⑨09/06(木)<関空がダメで、なんとかセントリアに戻りました>

セントリアに無事到着した。荷物ピックアップの場所で係員が何か紙を配っている。「欠航証明書」

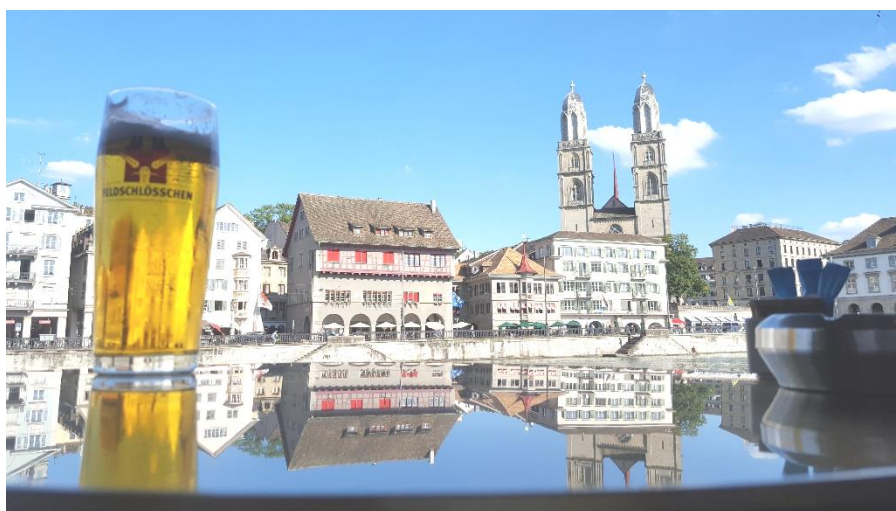
だ。関空行きをセントリア行きに変更した人に配布しているとのこと。そして、そこには、セントリアからJR新大阪までの領収書を様式にしたがって送れば補填されるという。しめた・・・。

メンバーでパイロットのCさんは、「台風が原因なので名古屋からの交通費はでないだろう」という予想だったが、よい方にはずれた。

更に、三宮関空のリムジンバスの復路代金ももどるのではとバス会社に電話した。厚かましいか？

飛行機の「欠航証明書」を見せると返却されますか、と聞いた。バス会社は、証明書は不要です、三宮リムジンバス乗り場に行けば証明書なしでお支払いするとのこと。そのとおりとなった。そりゃ、そんな人はたくさんいるはずだ・・・。

豪華スイス旅行の話が、最後はせこい話になってしまった。申し訳ない。いずれにしても、念願かなってのすてきな旅だった。こんどは、マッターホルンを見ながら氷河スキーをしたいなどと思っている。今回の旅、仲間と旅行会社の社長さんに感謝している。ありがとうございました。



チューリッヒで、ひとりで乾杯



あとがき

私は六甲ケーブル下駅から5分のところに住んでいます。すぐに登山道があり、油こぶしから六甲山に登れます。六甲山には小学校（神戸市立湊山小）のころから、学校ハイキングでよく登っていました。修法が原（塩が原）が多かったように思います。中学（神戸市立湊中学）のときには、耐寒20キロハイキングもありました。

大学時代後半（？）、むくげの会メンバーと徹夜マージャン明けに摩耶山（長峰山）を見て感動しました。ほんとにきれかったのです。当時は、国労が72時間ストライキもしていて、ストライキ連帯マージャンもしていたのです。

ふたたびハイキングにめざめました。毎週のように六甲山系の尾根筋、谷筋を登りました。登山地図の主要なところは登ったのではないかと思います。ひとりのことが多かったようです。

21世紀に入ってから（？）、古くからの友人・斎藤千宏さんが、高い山にさそってくれました。北アルプスに毎年のように登りました。残念ながら当時ブログをしていなくて、そのころの記録はありません。そのうち、斎藤さんの友人と、更に遠い山に行くようになりました。飯豊連峰、朝日連峰、そして北海道の山に登るようになりました。その友人がパイロットだったこともあり（？）、飛行機で行くようになったのです。そして、スイスまで行きました。ブログ（ゆうさんの自転車／オカリナ・ブログ）やFacebookに残っている記録を、いろんなことを思い出しながら見ていると、もう一度登ったような気になりました。そこで（？）冊子にすることにしました。六甲山編は省略して、遠出登山を集めました。

最近、サイクリング、それもアシスト自転車にはまっていて、登山の回数が少なくなりましたが、また近く遠くの山に登ってみたいと考えています。

2022年12月 飛田雄一

著者 飛田雄一（ひだ ゆういち）

1950年神戸市生まれ。神戸学生青年センター理事長、むくげの会会員など。
著書に『日帝下の朝鮮農民運動』、『現場を歩く 現場を綴る―日本・コリア・キリスト教―』、『心に刻み、石に刻む―在日コリアンと私―』、『旅行作家な気分―コリア・中国から中央アジアへの旅―』、『再論 朝鮮人強制連行』、『極私的エッセイ―コロナと向き合いながら―』などがある。hida@ksyc.jp

ゆうさんのハイキング生活

2023年1月1日発行

編集・執筆・発行 飛田雄一

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-3-18-205

e-mail hida@ksyc.jp

